

報告書

ワン・ワールド・フェスティバル シンポジウム 「持続可能な開発目標（SDGs）の 達成を目指して」

～企業、NPO、そして市民が思い描き変革する 2030 年の社会～

ONE WORLD FESTIVAL

【開催日時】 2020 年 2 月 2 日（日） 11:30～15:00

【主催】 ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ワン・ワールド・フェスティバル シンポジウム
「持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指して」
～企業、NPO、そして市民が思い描き変革する 2030 年の社会～
報告書

1. 開催日時 : 2020年2月2日（日）11:30～15:00
2. 開催場所 : カンテレなんでもアリーナ
3. 来場者 : 210名
4. 主催者 : ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

5. シンポジウムの内容

- 開会 三木秀夫 ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会委員長 挨拶

第1部 基調講演

更家悠介 氏（サラヤ㈱ 代表取締役社長）

第2部 企業講演、パネルディスカッション

小谷美樹 氏（積水ハウス㈱CSR 部長）、津田恵 氏（大阪ガス㈱CSR・環境部長）、
菱田真 氏（㈱クボタ CSR 企画部長）、相良有希子 氏（阪急阪神ホールディングス㈱
人事総務室 総務部 社会貢献担当課長）

第3部 NGO 等パネルディスカッション

久保倉健 氏（（独）国際協力機構 企画部イノベーション・SDGs 推進室企画役）、
田中健造 氏（（公社）2025年日本国際博覧会協会 企画局戦略事業部長）、熱田典子 氏
（（公社）アジア協会アジア友の会 副事務局長）、藤田裕之 氏（元京都市副市長）、
中山羊奈 氏（（公財）大阪YWCA 常務理事・総幹事）
司会：関純子（関西テレビ㈱アナウンサー）、コーディネーター：高橋美和子（（特活）関
西NGO協議会 事務局長）

6. シンポジウム概要

持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指して、「サステナブル社会の実現に向けて」真摯に取り組まれている企業を中心に、「企業活動とSDGs推進の両立は可能か、SDGsを推進する関西企業の事例から」と題し、市民に向けて企業が取り組んでいるSDGsの活動の発表及びパネルディスカッションを実施する事で、市民の方々に企業の取り組みの現況を分かりやすく講演していただきました。

企業とNGO等とのディスカッションは、企業とNGO等とが協働できる分野あるいは互いに補完できる関係を構築できるのか、について意見交換をさせていただきました。

また、NGO等のパネルディスカッションは、SDGsを共通言語としたNGO/NPOと行政とのパートナーシップを考える、と題しディスカッションを行いました。

今回のシンポジウムは、「誰一人取り残さない」を理念としたアジェンダ達成のための、市民一人ひとりへの動機づけを与える事を目的として開催されたものです。

7. 第1部：基調講演 サラヤ株式会社 代表取締役 更家 悠介 氏

【基調講演概要】

- ・環境についての警鐘（プラスチックの海洋汚染）
- ・イノベーション、新しい技術と考え方 ⇒地球を救う
- ・今世紀末の人口が70億人から100億人に増加する。人類が経験したことのない世界に突入することになる。
- ・将来的には、地球の温度が3度アップする可能性がある。多大なリスクを抱える地球環境に陥ることになる。この様なリスクを踏まえ、理解し行動する事が重要である。
- ・ボルネオでの活動 ⇒ 「ヤシノミ洗剤」の生産 ⇒ 原料調達地の環境問題に直面（世界の植物油の需要によるプランテーション拡大） ⇒ 象・オランウータン等の動物が甚大な被害を受ける（森林伐採による動物の被害）
- ・動物の被害を防ぐため ⇒環境保全団体設立に関わる ⇒緑の回廊プロジェクト（森林を確保する活動）、野生生物の保護活動 ⇒ ヤシノミ洗剤等の対象商品の売上1%で活動を支援
- ・ウガンダでの社会貢献 ⇒ 乳幼児の死亡率が高い ⇒ 病院での手指消毒の徹底 ⇒ 現地でのアルコール消毒剤の製造・販売 ⇒ 病院へ導入および医療従事者への衛生教育 ⇒乳幼児死亡率の改善に寄与
- ・スナノミの害が社会問題になっている。⇒ サラヤ㈱がスナノミローションの開発を目指している。
- ・サラヤ㈱の事業目的は、世界の衛生、環境、健康の向上に貢献する事です。等



基調講演：サラヤ㈱代表取締役 更家 悠介 氏

8. 第2部 企業活動とSDGs 推進は可能か ～SDGsを推進する関西の企業の事例から～

◎企業講演

I. 積水ハウス株式会社 CSR部長 小谷 美樹 氏

【講演概要】

- ・2005年サステナブル宣言 ⇒SDGs 国連採択 2015年より10年前にサステナブル宣言。
※50年、100年と長期に使用する住宅を供給している住宅会社として、サステナブル宣

言は非常に重要な決断だった。

- ・ゼロエネルギーハウス ⇒生活する消費エネルギーを、創り出したエネルギー（電力）で相殺し、エネルギー消費ゼロを目指します。⇒2013年から供給される住宅全棟が対象
- ・積水ハウスのサステナブルの考え方
4つの価値 = 1) 環境、2) 経済、3) 社会、4) 住まい手 ⇒SDGsの17項目の目標のうち13項目に関係している。SDGsの目標達成にかなりの貢献度となる。
- ・サステナブルの考え方は、住宅を建築する事で社会課題を解決し、より良い社会をつくる事である。⇒事業のモチベーションとなっている。
- ・積水ハウスのESG経営 SDGsと中長期ビジョン（SDGsの目標項目含む）は、下記のように、大きく3つに分類され、細分化された内容がSDGsのどの項目を目標としているかを見える化している。

1) 環境

- ①脱炭素社会（SDGs 7. 12. 13） ②人と自然の共生社会（SDGs 14. 15）⇒生態系のネットワークの最大化（5本の木運動） ③資源循環型社会（SDGs 12）⇒ゼロミッションの深化（プラスチックマートキャンペーン）

2) 社会

- ①バリューチェーンを通じた顧客満足の追及（SDGs 3. 8. 9. 11. 12） ②ダイバーシティの推進（SDGs 5. 8. 9）⇒プラットフォームハウス構想、女性キャリア促進
- ③働き方改革（SDGs 3. 5. 8） ④人材育成（SDGs 8. 9） ⑤人権尊重（SDGs 8. 10）

3) ガバナンス

- ①コーポレートガバナンスの強化 ②コンプライアンス促進とリスクマネジメント（SDGs 16） ③労働安全衛生マネジメント（SDGs 3. 8）

※積水ハウスは、住宅を建築する事で社会課題を解決し、よりよい社会をつくり上げることに貢献します。



積水ハウス(株) CSR部長 小谷 美樹 氏

II. 大阪ガス株式会社 CSR・環境部長 津田 恵 氏

【講演概要】

- ・ 社会の課題にエネルギーで応える ～Daigas グループの SDGs への貢献～
- ・ 大阪ガス(株)の創業からの歩み ⇒社会問題を解決する事からスタート
 - 1) 設立趣意書に「地域の安全性向上」を取り上げていた
 - 2) お客様のニーズとともに新しい用途を開発し、熱から電気まで様々なエネルギーを供給しています。
- ・ Daigas グループの CSR 経営
 - 「お客さま価値」「社会価値」「株主さま価値」「従業員価値」の4つの価値創造を実現する
 - 4つの価値創造の実現こそ社会的責任を果たすこと
- ・ 役員・従業員の行動指針 (CSR5 の憲章)
 - 1) お客さま価値の創造
 - 2) 環境との調和と持続可能な社会への貢献
 - 3) 社会とのコミュニケーションと社会貢献
 - 4) コンプライアンスの推進と人権の尊重
 - 5) 人間成長を目指した企業経営

※5つの分野について、目標を定め、その実績(進捗)をチェックする見える化
- ・ SDGs は当社グループの考え方と方向性が合致し、複数の目標達成に貢献可能と考えています。
- ・ 「SDGs13 気候変動」はエネルギー事業と密接に関係し、最も貢献できるテーマです。

※2017年～2030年 CO2 排出累計削減貢献量見込み 約7,000万トン
- ・ SDGs の削減目標に貢献できる項目、SDGs 5.7.8.9.11.12.13 の7項目。
- ・ SDGs の具体的な取り組み
 - 1) 当社の事業活動の結果、社会全体の CO2 排出削減に繋がっており、事業を通じて2030年までに累計7000万tのCO2削減を目指します。(SDGs 13)
 - 2) 風力、太陽光、バイオマスなどの再生可能エネルギー電源を2030年度までに200万kW程度に増やすことを検討中(SDGs 7.9.13)
 - 3) 再生可能エネルギー開発や環境技術の導入で、海外の環境改善にも貢献(SDGs 7.9.13)
 - 4) 2018年の台風襲来時における停電時、エネファームの自立運転機能により数百件のお客さまが電力使用を継続されています (SDGs 9.11.13)
- ・ SDGs を使った積水ハウスさまとのレジリエントコラボレーション

※SDGs の理念に則り、積水ハウスさまと当社と共同で、入居者さまが災害時に自立運転したエネファームの電気を周辺住民さまに貸し出すスキームをお手伝いしています。



大阪ガス(株) CSR・環境部長 津田 恵 氏

Ⅲ. 株式会社クボタ CSR 企画部長 菱田 真 氏

【講演概要】

- ・会社概要：創業 1890 年、 資本金 841 億円、連結売上高 1 兆 9,200 億円、
連結従業員数 41,027 名、グローバル展開 120 カ国以上、海外売上比率 67%
- ・創業者の久保田権四郎は、水道用鋳鉄管の試作と研究を開始し、多くの会社が撤退する
中で、1893 年、苦難の末に日本で初めて国産化に成功。
- ・それ以来、クボタは、日本中にきれいな水を届けようと水道管をつくり始めました。
- ・クボタは世界の水の懸け橋となっている。
- ・ミッション・私たちの使命
人類の生存に欠かすことのできない食料・水・環境。
クボタグループは、優れた製品・技術・サービスを通じ、
豊かで安定的な食料の生産、安心な水の供給と再生、
快適な生活環境の創造に貢献し、地球と人の未来を支え続けます。
- ・クボタと SDGs との関わりについて
 - 1) SDGs の目標が定められる前から、クボタは行動していました。
※130 年前、日本中にきれいな水を届けようと水道管をつくり始めました。いま、地
球から人へ、人から地球へと、クボタは世界の中で、水の懸け橋になっています。
70 年前クボタは耕うん機を開発しました。今では、コメ作りのほとんどの作業を機
械で行うことができるようになりました。更に多くの人の食を支えるために、世界
に飛び出し、それぞれの地域や食物に合わせた農業機械を作っています。
 - 2) すべての人に、食の不安の無い明日を
※人口が増加する未来に向けて、少ない人でも、たくさんの作物が作れる農業を実現
します。
※世界中の「作物をつくるところから、食べるところまで」を支え、食に困る人のい
ない世界を目指して、行動し続けていきます。
※地球の環境にも気を配り、多くの国の都市環境を支えることで、すべての人が快適
な環境で生活できる未来を目指し、行動していきます。



(株)クボタ CSR 企画部長 菱田 真 氏

IV. 阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務室 総務部 社会貢献担当
課長 相良 有希子 氏

【講演概要】

- ・「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」 ～SDGs が目指す持続可能なまちづくりのために～
- ・会社概要：連結売上高：7,603 億円、連結従業員数：22,152 人、グループ会社数：104 社 5 団体（海外含）以上 2018 年 3 月決算実績 創立：1907 年 10 月
- ・阪急阪神ホールディングスグループについて
 - 1) 6 つの中核会社：阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神不動産、阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズ
 - 2) 6 つの中核会社の業種分類：都市交通、不動産、エンタテインメント・コミュニケーション、旅行、国際輸送、ホテルに分類される。
- ・ゆめ・まちプロジェクト基本方針：

阪急阪神沿線を中心に、私たち一人ひとりが関わる地域において、「未来にわたり住みたいまち」をつくることを目指します。
- ・ゆめ・まちプロジェクト 重点領域
 - 1) 「未来にわたり住みたいまち」づくりに向けた「地域環境づくり」(SDGs11)と「次世代の育成」(SDGs4)
 - 2) ゆめ・まちプロジェクト 3 つの協働の柱
 - ①グループ各社との協働（グループ各社が事業のノウハウや人材を活用・連携しながら、年間約 100 件の活動を実施。）
 - ②地域（市民団体等）との協働（当社の重点領域と同じ社会課題に取り組む市民団体を、資金面と広報面から支援。）
 - ③グループ従業員との協働（従業員や OB の啓発やボランティアを促進。）上記の①②③の活動は、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」を目指す。
- ・グループ各社の社会貢献活動
 - 1) 環境：持続可能なライフスタイルの普及活動 (SDGs11)

2) 次世代育成：こども達が地域や社会の理解を深める活動 (SDGs4)

3) 「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」「地域環境づくり」や「次世代育成」をテーマに活動している阪急阪神沿線の市民団体を、当社とグループ従業員が一体となって応援する。(SDGs4、11、17)

●基金の特徴

①エリア限定： 阪急阪神沿線での活動に特化

②従業員と会社の協働プログラム：助成金の原資の半額はグループ従業員の募金、助成先選考も従業員代表と会社代表で実施

③SDGsの目標4、11を目指す活動を助成：第10回以降は、特に、SDGsの目標4・11に関わる分野で、目標17を意識した活動を重視して選考

・未来のゆめ・まちプロジェクトの10周年にあわせて「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」を運行

1) 行政や市民団体・企業と連携して、SDGs とそれに関連している本プロジェクトの取組の意義を発信するラッピング列車を、阪急・阪神共通デザインで走らせた。



阪急阪神ホールディングス(株)人事総務室 総務部
社会貢献担当課長 相良 有希子 氏

9. 第2部 企業のSDGsの目標達成を目指したパネルディスカッション



パネルディスカッション参加者 相良氏、菱田氏、津田氏、小谷氏

1) パネルディスカッションの質問 (1)

※一市民として関心があるのは、企業の経済活動と SDGs の達成という両輪をどのように推進していくのかということだと思います。SDGs は経済・社会・環境の三分野のすべてにおける関連課題と相互関連性を重視し、包摂的な視点をもって解決しなければなりません。そうした中、企業が SDGs の目標達成に大きく貢献する「メカニズム」というものはあるのでしょうか。

例えば、企業の売上げを増大する過程で SDGs の目標達成に大きく貢献できるという、メカニズムについて

①積水ハウス株式会社 CSR 部長 小谷 美樹 氏

【質問 (1) の回答】

- ・住宅から社会課題を解決する事が積水ハウスでは重要と考えています。暮らしのソリューションが SDGs につながると考えているからです。日本は課題先進国と呼ばれていますが、この事が世界とつながるポイントではないでしょうか？ 積水ハウスの災害等に対する真摯な対応は、世界でも驚きをもって注目されています。災害は世界中で発生しますので、50 年、100 年と長く住める住宅は世界共通の課題となります。この社会課題を解決することが世界の課題解決に貢献できると考えています。
- ・また、従業員に SDGs の研修をすることで、イノベーション・コミュニケーションによって、前線で活躍している営業・技術が社会の課題を見つけ価値を生み出します。その価値をフィードバックする事で全社員を動機づけすることになります。
- ・E-ラーニングで全社員が SDGs を研修したビデオを今回紹介させていただきます。
※会場で SDGs 社員研修用ビデオを上映する。
- ・イノベーション・コミュニケーションの窓口を HP に設け、イノベーションを生み出す風土を作り上げる事を目指しています。

②大阪ガス株式会社 CSR・環境部長 津田 恵 氏

【質問 (1) の回答】

- ・大阪ガスとしては、経済活動（事業活動）と SDGs は両輪という考えではなく、公益事業としてインフラで社会を支えてきこともあり、ほぼ一体となっている一輪車のイメージです。
- ・社会の変化のスピードが速いという事。我々が課題と思っていることはすでに解決されているかもしれない。もっと新しい問題が起こっている可能性もあります。このような状況にいち早く気づくには、ステークホルダーの方々、特にお客様とか社会のプレーヤー等の方々の声をたくさん集めることが重要となってきます。いろいろな意見を聞くという柔軟性が問題解決のポイントではないでしょうか…。
- ・企業は足元の課題を必死になって解決しようとしませんが、未来の課題も我々には課せられていますので、時世を変えて未来から逆算して我々がしなければならない課題を考えることも重要です。

③株式会社クボタ CSR 企画部長 菱田 真 氏

【質問（1）の回答】

- ・企業は利益を追求するもの、というのが民間企業のイメージかもしれませんが。
- ・しかし、利益を追求するために製品を製造しているわけではありません。本来の目的は、人のため、社会のために役立つ製品やサービスを提供するために生産しているのです。
- ・クボタの場合、会社の売上げが増えることは、それだけ社会への貢献が増大していると理解しています。社会貢献性が高いことが、社員のモチベーションの高さにつながっています。
- ・SDGs の 17 項目の目標達成には、事業活動そのものが大きな効果と貢献をもたらすもの、と考えています。

④阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務室 総務部 社会貢献担当
課長 相良 有希子 氏

【質問（1）の回答】

- ・事業と社会を良くしようとするのは同じことだと考えます。
- ・社会貢献活動を推進してきましたが、この貢献活動は会社と別行動ではなく、一体となって推進しています。
- ・事業を推進する過程で地域の方々に育てられてきたので、まちを良くしようとする。会社がそこで事業することがまちへの貢献につながる。
- ・近江商人の三方よし（お客様よし、企業よし、世間よし）の考え方で事業を推進してきました。
- ・SDGs の課題が明らかになったことでゴールが見えてきました。SDGs という世界共通の言語によって、ゴールを見て未来への目標を考えることで、どのように事業へつなげて行くかも一度紐づけする。このサイクルを作ることが重要と考えます。
- ・私たちの事業の安全安心は SDGs の 11 項目に該当します。安全安心な交通インフラを創造する、という目標に該当します。交通機関としては事業そのものの当たり前のことですが、当たり前のことを再考する。あるいは再検討することが、SDGs を推進する上で大切な事と考えています。

2) パネルディスカッションの質問（2）

※去年 12 月に閣議決定された「SDGs の実施指針」の中で、「優先課題と SDGs アクションプラン 2019」に、「SDGs の担い手として次世代・女性のエンパワーメント」は三本柱の一つとして取り上げられています。また、『ジェンダー平等の実現』は、「すべての課題への取組において、主流化する必要のある分野横断的課題として取り組みを推進していく」という方向性も示されました。

さて、みなさまの企業では、ダイバーシティとしての取り組みが一般的かと存じます。「女性躍進」について目標を定めている企業が増えていますが、意思決定の場にどれだ

け女性が参加しているのか、子育て・介護に携わる人々が働き続けられる環境、男性の育休取得など含めて総合的にお話を伺います。

①積水ハウス株式会社 CSR 部長 小谷 美樹 氏

【質問（2）の回答】

- ・ CSR 部の前はダイバーシティの担当を 4 年間経験しました。
- ・ 積水ハウスの女性躍進について紹介しますと、まず管理職登用は管理職前の女性職員に対して、ウーマンカレッジという制度をつくり、管理職 4 年程度手前の女性職員を 2 年間研修することにしていきます。経営的な視点と意識改革を養う等の研修を行っています。
- ・ この研修によって、数十名の女性管理職が誕生しています。
- ・ 両立の支援についても力を入れています。男性職員が育児休暇を 1 カ月取得する事を会社が奨励しています。現在、約 250 名の職員が育児休暇を取得しています。
- ・ このような取り組みを大阪の他の企業と共有し、パートナーシップを築ければと考えています。
- ・ 大阪の中で活躍している女性を支援するサクヤヒメの活動を奨励し、大阪の経済活性化に向けて貢献したい。

②大阪ガス株式会社 CSR・環境部長 津田 恵 氏

【質問（2）の回答】

- ・ 女性活躍は当然に重要な問題と考えます。
- ・ ミイラ取りがミイラになる、という制度で、子育て家庭に学生がワークライフインターンで子育ての現場を経験することを始めています。
- ・ このメリットは、学生は子育てを目の当たりにして共働きなどの状況を把握する。また、子育て家庭は、インターンを家庭に迎えることで、気軽に子育ての相談ができる状況を醸成する、という事です。
- ・ メンター制度は、女性が管理職のイメージがわからない時に、男性の管理職を付けて状況を把握できるようにする。この事で、管理職になる不安等を払拭することができるようになります。一方、男性は女性の気持ちが理解できるようになりました。

③株式会社クボタ CSR 企画部長 菱田 真 氏

【質問（2）の回答】

- ・ 男女は互いに半々である。しかし、会社の会議等になると男性ばかりになる、あるいは 2~3 人の女性が出席するという現象が生じてしまいます。この場合、会社のダイバーシティの取り組みが遅れているという認識になります。
- ・ 女性と男性の管理等への登用は半々が望ましいと考えます。
- ・ クボタでは、国籍、経験等様々な人が社員として採用されています。このため、私の部下に外国人の社員が配属されたこともあります。そのような環境になると、今まで

普通に行ってきた、あるいは考えてきたことに、実は合理的な説明が見つからないものがあると気づかされることもありました。性別だけでなく、国籍や文化の違いなどが考え方の多様性に繋がり、新しい発見等に繋がっていくものと考えます。

- ・企業の中でのダイバーシティは大変重要と考えています。

④阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務室 総務部 社会貢献担当
課長 相良 有希子 氏

【質問（２）の回答】

- ・社内では当然に女性躍進については対応していますが、今回は我々の鉄道沿線のお客様が子育てしやすく女性が働きやすい沿線を目指す取り組みを紹介します。
- ・地域が元気になるために女性が活躍されるということは事業にとっても大切な事と考えます。
- ・女性応援プロジェクトとして、女性のための就業支援、家事代行等を紹介する支援を行っています。また、アフタースクールを事業として行うことで、子どもたちが生き活きと過ごせて、母親が安心して働くことができます。
- ・ミマモルメは、IC タグをランドセルに入れて、子どもが校門を通過すると母親の携帯に連絡されるサービスです。共働きの女性に安心を提供するサポートを実施しています。
- ・働く女性に安心を提供するため、企業のリソースを使って、地域も含めて女性が活躍できる社会を作っていくことに貢献しています。

3) パネルディスカッション参加企業と NGO 等との意見交換



企業（左側）と NGO 等（右側）との意見交換

①久保倉健 氏（（独）国際協力機構）からの企業への質問

SDGs 採択前からすでに社会貢献活動や環境対策などに積極的に取り組まれています。SDGs の採択前と後で何が変わったのでしょうか？ SDGs 時代に入って新たにスタートした取り組み、これまでの取り組みで大きく改良した点、または今後取り組まなければならないチャレンジなどがあれば、ご紹介いただきたい。

①の質問の回答 ㈱クボタ 菱田真 氏の回答

- ・社会の困りごとを解決するために何か知恵を絞ろうとした時、極端かも知れませんがアフリカの例で説明しますと、国民所得が極端に低い国でも、食料は増産しなければならないので、最初の何年かは赤字を出してもトラクターを該当国に提供する、という考え方に変わってきました。
- ・従来ですと赤字の計画は全く考えられなかったが、SDGsの後では、該当国の事情を斟酌し、農業生産の効率化のためにトラクターを提供し、農業の手伝いをしていた子どもたちを児童労働から解放し、学校に行くことができる環境を創造する。そして、将来所得が上昇することを見込んでの先行投資を行ってはどうか、という考え方にも賛同を得られるようになってきました。
- ・SDGsの目標達成のために、会社で何かできないか、という機運、変化が表れているのは確かなことです。

①の回答に対する感想 久保倉健 氏（(独)国際協力機構）

- ・SDGsの時代になって何が変わってきたのかについて具体例を示していただきよく理解できました。

②藤田裕之 氏(元京都市副市長)から企業への質問

関西圏の強みの一つは文化力ではないかと考えます。関西に拠点を置く企業としてSDGsを広義に見た時、文化力の発信も含めて対応しようと考えておられるのであれば（既に取り組んでいる実績も含めて）お尋ねしたい。また、同様にSDGsを広義で解釈した場合、ライフスタイルの変化、精神的なモチベーション等の高まりについてお伺いしたい。

②の質問の回答

1) 大阪ガス㈱ 津田 恵 氏

- ・SDGsの課題を解決するためには、出来るだけ多くの方々とつながって意見交換が必要で、この事で解決の糸口が見えてくるものと考えます。
- ・2020年代には関西の人口は頭打ちになります。地域の活力が失われます。
- ・多くの人々に住んでもらいたいし、来ていただくだけでもありがたいと思います。
- ・人を呼び込むには、都市の魅力・文化力が重要と考えます。しかし、どのようにその魅力を発信するか、これが問題となります。
- ・当社では1986年度にエネルギー・文化研究所を設立し、都市の魅力をどのように掘り起こすかを探っています。
- ・それぞれの都市には歴史・文化があるわけで、その魅力を掘り起こし、更に魅力を増し、その魅力を発信する事で訪れる人を増やすこととなります。
- ・一つの方法として、語り部シアター、という活動を行っています。都市の魅力を掘り起こし、語り部する。今後も関西の魅力をもっとPRしたい。

2) 阪急阪神ホールディングス(株) 相良 有希子 氏

- ・SDGs と文化の関わりは、SDGs4 のターゲットに「文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して」と規定されています。
- ・ユネスコからも文化の多様性に関する世界宣言がでており、文化の力によって多様性の理解を促すことが大切だということです。
- ・小林一三は大衆文化を広めました。貧しい時代に百貨店の食堂にライスだけ注文するお客様を受入れ、将来のお客様となってくれることを願ったエピソードもあり、次のライフスタイルの提案を行ってきました。
- ・多様性を理解する切っ掛けは文化力ではないかと考えます。
- ・スポーツも一体感を醸し出す等 SDGs 目標達成には重要な要因となります。
※阪神タイガース等のスポーツの振興等

③田中健造 氏 ((公社) 2025 年日本国際博覧会協会)からの質問

2025 年度の万博は、1) 人類の課題を解決する、2) 参加して共に作っていく (協働する) がテーマとなっている。企業等に活用していただきたいのは、1) 情報の発信力、2) 多様な方々が参加する。(プラットフォーム的な役割を) の 2 点です。企業への皆様には、万博を活用して SDGs という観点で何かやりたいことがあれば伺いたい。つまりアイデアを頂けたら有り難いです。

③の質問の回答

1) 阪急阪神ホールディングス(株) 相良 有希子 氏

- ・企業としては、移動がテーマとなるためこの観点から考えたい。
- ・個人的には、若者のアイデアが形になることを願っています。

2) (株)クボタ 菱田 真 氏

- ・個人的には、今回の万博会場では、食品ロスが一切出ないような仕組みを実現してほしいと期待しています。世界中から多くの方が訪れるので、そのことを来場者に示すことができれば画期的であると思います。

3) 大阪ガス(株) 津田 恵 氏

- ・ワークライフバランスによれば SDGs13 で気候変動、5 番でジェンダーを取り組んでいます。個人的には、CO2 の出ない万博は可能かに興味があります。実は、CO2+水でガスを再生する事が可能なのです。会場の CO2 を集めてガスを作り、会場のエネルギーを賄う CO2 のリサイクルを考えたい。
- ・ジェンダーは、世界的に不名誉な状態にあるので、世界初のウーマンエキスポはどうか？ パビリオンを作るなどがあれば…。

4) 積水ハウス㈱ 小谷 美樹 氏

- ・ウーマンエキスポには私も参加したいです。
- ・当社は5本の木運動を推進しています。本社の所在地に里山がありますので、万博会場にも里山を造るというアイデアはいかがでしょうか？ 自然をとりいれ、自然と共生する万博にしてほしいです。



司会・進行 関西テレビ放送㈱
アナウンサー 関 純子 氏

10. 第3部 SDGsを共通言語としたNGO/NPOと行政のパートナーシップを考える



3部参加者：田中氏、中山氏、熱田氏、久保倉氏、藤田氏、高橋氏（左から）

1) 元京都市市長 藤田 裕之 氏

- ・SDGsの項目に文化力は直接出て来ませんが、関西の文化力は東京一極集中に対峙できる大きな強みの一つになっています。
- ・SDGsの推進のためには、それぞれの目標が密接に関わっていることを認識し、当事者

意識を持って、ライフスタイルの転換や地域コミュニティの維持に向けて努力することが不可欠です。



藤田 裕之 氏

2) (独) 国際協力機構 久保倉 健 氏

- ・関西 SDGs プラットフォームは、(1)SDGs への取組みが、関西の民間企業、市民社会・NPO/NGO、大学・研究機関、自治体・政府機関、すべての人々にとって、重要であることを広くアピールするとともに、(2)各ステークホルダーの連携と協働により、関西において持続的社会的構築に向けた活動や高い社会的価値を生み出す経済活動を加速していくことを目的としています。
- ・2015年9月に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が、途上国と先進国を含む全世界及びここ関西にとって、重要な行動計画であることを強く認識し、経済・社会・環境を調和させ、持続可能で強靱、そして誰一人置き去りにしない、一人ひとりが能力を発揮できる社会を構築していくことを決意しています。



久保倉 健 氏

3) (公社) アジア協会アジア友の会 熱田 典子 氏

- ・公益社団法人アジア協会アジア友の会は 1979年に大阪で設立され、アジア各地で水を通じた支援を行っている国際協力 NGO です。SDGs を達成する上でも、非常に重要である「水の支援」を通じて、生活や環境、医療や衛生などコミュニティ全体を見渡した支援につなげ、現地の地域の自立を目指した活動を実施しています。
- ・水を通じた支援をおこなう NGO として、SDGs の達成にむけて、他セクターとの連携や

協働がどのような形で相乗的効果を発揮していけるかの検討していく必要性を提案したい。



熱田 典子 氏

4) (公財) 大阪YWCA 中山 羊奈 氏

- ・大阪YWCAは、1918年に創設され、100年の伝統と活動実績を持つ団体です。
- ・女性の自立と成長のサポート、ボランティア育成や日本語教育、青少年育成、社会福祉活動、平和や環境問題、国際理解と国際協力、人権擁護などのために活動しています。
- ・NHK朝の連続テレビドラマ「あさが来た」の主人公のモデルである廣岡浅子氏が、大阪YWCAの実質の創設者です。
- ・女性支援として、女性エンパワメント、DV被害女性のサポート等の活動を行っています。



中山 羊奈 氏

5) (公社) 2025年日本国際博覧会協会 田中 健造 氏

- ・2025年の万博はSDGsへの貢献を謳い招致をしました。前回の大阪万博との違いは、国威発揚で技術を見せる目的から、人類の社会課題の解決に貢献する事が目的となります。また、見る万博から、参加をして作って行く万博へと変化しています。
- ・2025年には、SDGsに貢献するベストプランを紹介し、レガシーとして残すことを目指しています。
- ・TEAM EXPO 2025とは、いろんなメンバーと一つでも多くの身のまわりの課題を解決して「あ！ちょっと社会が良くなった！」体験を増やしていくプロジェクト。その体験が結果的に前向きに多くの問題を解決し、SDGsな世界を実現すると考えています。そして、世界中のその体験の集合体が2025年の万博。つまり、万博を「あ！ちょっと世界が良くなった体験」祭にしたいと思っています。

- ・さまざまな資産を活用できる大企業。実証実験の機会創出に貢献できる自治体や大学。そして何より、この世界に暮らす人々。すべてのひとが、このチームのメンバーであることを強調し、協働したいと考えています。



田中 健造 氏

6) 3部コーディネーター (特活) 関西 NGO 協議会 高橋 美和子 氏

- ・第3部では、行政、JICA、日本国際博覧会協会、NGOといった非営利セクターの立場から、SDGsの達成に向けて今までどのような貢献をしてきたのか、また、今後の展開をどのようにお考えになられているのかをお話をいただきました。その中で見えてきた共通項は、それぞれの組織が、組織の枠にとらわれずにSDGsを通じた多様なネットワーク・パートナーシップを創出することで、相乗的な効果を発揮できるという点です・
- ・そして、推進を加速化させていくためには「組織」の行動変容だけではなく、「市民一人ひとり」の参加が重要なファクターであるという認識でした。SDGsは一つのセクターだけで完結できない目標であり、補完しながら、連携・協働をすすめることが大切です。
- ・同時に、市民一人ひとりがSDGsを達成する主体であることを認識するために、若い世代を含む人財育成の視点が重要であることも述べられました。最後に、このシンポジウムの試みをSDGs達成に向けた次の段階に進めていく必要性についても認識を共有しました。



高橋 美和子 氏

11. シンポジウムを終えて

I. 基調講演、企業講演について

- 1) 基調講演、企業講演に参加いただいた5社は、社会貢献度の高い企業の皆様でした。創業以来、社会に貢献する理念及び社是のもと、高いイノベーションと企業文化を積み上げ、お客様、企業、社会のバランスの良い経営をされているとの印象を受けました。
- 2) 参加された5社はそれぞれに特徴があり、基調講演のサラヤ㈱の事業目的は、世界の「衛生・環境・健康」の向上に貢献することであり、持続可能な成長に繋がるマテリアリティを特定し、サラヤは事業目標を通じて少しでもその解決に貢献したいと考えています。
- 3) 積水ハウス㈱は他に先駆け2005年に「サステナブル宣言」をされ、50年、100年と長期に使用する住宅を供給している住宅会社としての将来の責任を明確にされました。このサステナブル宣言は、住宅を建築する事で社会課題を解決し、より良い社会をつくる事を明確にしています。
- 4) 大阪ガス㈱は、社会問題を解決する事を創業からスタートさせていました。DaigasグループのCSR経営は、「お客さま価値」「社会価値」「株主さま価値」「従業員価値」の4つの価値創造を実現することであり、4つの価値創造の実現こそが社会的責任を果たすことと考えています。
- 5) ㈱クボタは、創業以来水道管を作り続けています。インフラ部門の業態のため一般消費者にはなじみが薄いようですが、生産性を上げる日本の農業、インフラの整備と様々な地域及び場所に適合する耕うん機等の機械化で世界の農業部門を支え、確かな功績を残されています。
- 6) 阪急阪神ホールディングスグループは、『安心・快適』そして『夢・感動』をお届けすることで、お客様の喜びを実現し、社会に貢献する」ことをグループ経営理念としています。これからの100年も、この地域社会の一員として歩いていくために、事業活動のみならず社会貢献の分野においても、グループ社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」を通じて、人々の喜びにあふれた地域社会の発展に貢献されています。

以上のように、企業が積極的に取り組んでこられた独自のSDGsの活動は、企業活動及び事業と一体になっていることが、今回の各企業のSDGsの取り組みの報告で明らかになりました。

特に印象的なのは、①日本の企業は、近江商人の考え方を基本的に持ち合わせているように感じた事。そして、この思想がSDGsとの親和性が高いことの発見。②目指した目標に対する真摯な姿勢、継続する力、特に挑戦する姿勢、極める力が突出している事でした。また、サラヤ㈱のイノベーションの追及、㈱クボタのあくなき挑戦、阪急阪神ホールディングスグループの愛にも似たお客様への思い、大阪ガス㈱の国民への生活向上への想い、積水ハウスの健全な明るさと幸せをもたらす住宅の開発は、5社それぞれに社会貢献度が高く、リーディングカンパニーにふさわしい内容の講演でした。

今回のシンポジウムは、「誰一人取り残さない」を理念としたアジェンダ達成のための、市

民一人ひとりへの動機づけを与える事を目的として開催されたものです。結果的には、多数の参加者を募ることができ、成功裏に閉幕できましたことを報告させていただきます。

II. これから

今回のシンポジウムで特に有意義だったのは、NGO等と企業との意見交換（ディスカッション）ではないでしょうか。企業とNGO等との多面的な協働により、互いに補完し合う関係が構築されるのでは、との印象を受けました。

企業の講演等で明らかになったのは、企業は本業を遂行すると同時にSDGsの目標達成に向けて積極的に取り組まれている、という事でした。SDGsの目標を達成する事が、事業成功への「道しるべ」となっているようにも感じました。この傾向は、一般の企業においても同じようなモチベーションになっているものと推察されます。

SDGs目標達成のためには、企業が積極的に参加し、企業の特性であるダイナミズム、経済力により、目標達成に近づくことが可能となります。特に、企業の事業に直接関わるSDGsの項目については特段の効果が上がることが予想されます。一方で、企業の事業に関係しない項目は、貢献度や効果をあまり期待できないのではないかと心配になります。

企業の事業に関係のないSDGsの項目について、果たして誰がどのように対応すべきなのでしょう？

参加企業名	参加企業が関わるSDGsの17の目標																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
積水ハウス(株)			○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○
大阪ガス(株)					○		○	○	○			○	○	○			
(株)クボタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
阪急阪神ホールディングス(株)				○								○					○
目標の内容	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	長も働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	責任ある消費を促す	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすすめる	パートナーシップで目標を達成しよう

特にSDGs1.2.3の貧困・飢餓及び健康等についての目標は、企業の事業目的になりにくいため、企業からのサポートが少ないかもしれません。

上記のSDGs1.2.3の項目については、市民一人ひとりへの呼びかけが特に重要となります。市民への参加を呼び掛けるセミナー及びシンポジウム等を開催し、多くの市民が現状の把握や情報の共有が可能となる機会を設けることが問題解決のポイントになります。

17項目のうちどの項目が達成に程遠いのか、等の指数を発表することも重要と考えますが、その立ち遅れた項目について誰がどのように対応すべきなのか、について今後の課題として協議しなければならないと考えています。

NPO/NGOの団体は、社会問題の解決に向けて長年取り組んでこられました。このような経験を活かしながら、SDGsの17項目について、バランスよく対応できるように、企業と連携

を強化し、互いが補完できる関係を構築されることが期待されます。

また、この様な問題をワン・ワールド・フェスティバル シンポジウム等で協議し、発信することも重要なテーマと考えています。

最後になりますが、この様なシンポジウムを開催できましたことに、基調講演、企業講演、NPO等のディスカッションにご参加いただきました皆様、またお忙しい中ご参加いただきました市民の方々一人ひとりに感謝を申し上げます。

了

報告者：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会 事務局
大阪市東住吉区杭全1丁目15番18号 大西ビル3階

TEL：06-6777-1039 FAX：06-6777-2500

URL：<https://onefes.net/>

E-MAIL：onefe.contact-post@onefes.net

報告日：2020年3月

ONE
WORLD
FESTIVAL